

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

社是

商業を通じて、地域社会に信頼される誠実な企業でありたい。

売上高
181億円営業利益
4.5億円営業利益率
2.5%ROE
139.0%

2 中長期の経営戦略

1. 持続可能な書店創り

読書文化の継承を目的とし、新たな体験価値を提案。新業態との組み合わせで収益性を高める。

3. 店舗運営効率化

売場改装と運営効率化を実施し、早期黒字化を目指す。複合書店の強みを活かす。

2. 提案力と企画強化

オリジナル企画・施策の強化、EC販売拡大、書籍中心の事業展開と新規商品導入を加速。

4. グループシナジー最大化

子会社4社との連携強化で付加価値向上。グループ全体の黒字化を目指す。

3 対処すべき課題

① 消費環境の厳しさ

- ・ 物価上昇・エネルギー価格高止まりで実質賃金上昇が伴わない状況
- ・ 個人消費の慎重な姿勢と消費対象の選別傾向の継続
- ・ 先行き不透明な経営環境への対応

② 読書文化の継承と書店業の持続

- ・ 読書文化をひろげ、かけがえのない文化を承継する責務
- ・ 書店業界全体の事業承継問題への対応
- ・ 書店振興プロジェクト（経産省）での業界変革への参画

③ 業績向上と黒字化達成

- ・ 2026年10月期目標達成に向けた売上・利益確保
- ・ 新規事業（買取大吉など）の成長への連動
- ・ グループ全体の黒字化実現

面接で使えるポイント

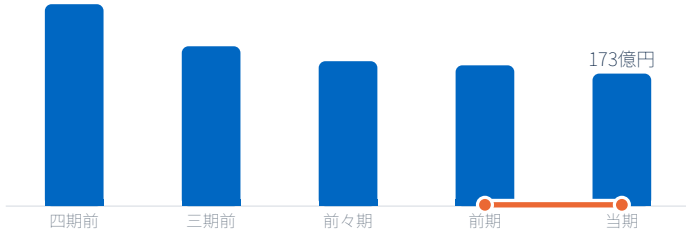
- ・ 1987年に日本初の複合型書店「蔦屋書店」を開店した企業の一員として、読書文化継承に貢献したい。
- ・ 経産省主導の書店振興プロジェクトに参画し、町から書店を守る使命に携わりたい。
- ・ 2026年10月期の売上高181億円達成に向け、持続可能な書店創りの戦略を推進したい。

株式会社トップカルチャー

小売業 | スタンダード（内国株式） | 決算期 10月31日 | ...

証券コード 7640

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
173億円

営業利益率
▲2.3%

財務健康度
4点 / 100点

将来性 雨 / 就活偏差値 30.9（当サイト算出の参考指標）

平均年収
499万円

小売業内 220位/318社

平均年齢
43.5歳

小売業内 117位/318社

平均勤続
17.8年

小売業内 48位/318社

女性管理職
4.6%

小売業内 207位/250社

男性育休
0.0%

小売業内 189位/193社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: トップカルチャー[7640] : 2026年10月期4月度月次売

株式会社トップカルチャー 企業研究シート

出典: 企業スコープ (kigyo-scope.jp) / 金融庁EDINET 有価証券報告書

将来性・就活偏差値・財務健康度は当サイト算出の参考指標です。

投資・就職の判断は必ず一次情報をご確認ください。 作成日 2026-08-05

